



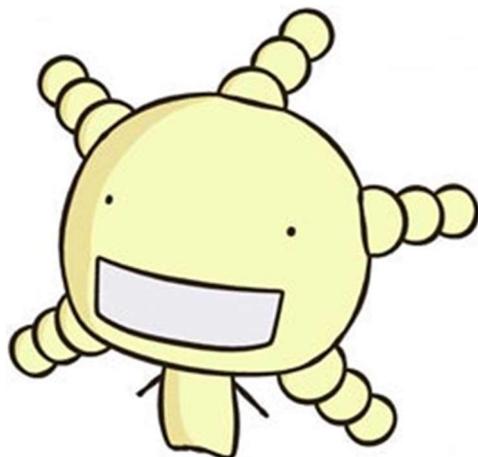
# 館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 1 9 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

## 世界観



よく私達は、「みんながやっているから」とか「みんな思っているよ」とか、気軽に「みんな」という言葉を口にします。ところがよくよく調べてみたら、自分周辺

の 2～3 人の話だったりして。なんてことも良くある話。今からご紹介するのは、極々小さな微生物ではありますが、一個体の話ではありません。コロニーの話です。まるで意志を持っているかのような集団です。

私は幼い頃から漫画本という物に、ほとんど興味が無い少年でしたが、就職し社会人になってから、「こんな共感できる読み物（漫画）があったのか」と、ビデオまで購入してしまった作品があります。そのタイトルは石川雅之著「もやしもん」。知っているコアな方も理系には多いはず。農業大学を舞台にした、微生物たちの姿が見えて話もできる男子学生と、彼を取り巻く者たちのお話です。アスペルギルス・オリゼー（麹菌）をはじめとする様々な菌たちも、ユニークな形容で登場します。さらに「もやしもん」を読むと、自然に菌に関する知識が身につきます。食中毒の原因菌である O-157 のような日常生活でも気を付けなければならない菌についての知識も入ってきます。菌たちはそれぞれ好き勝手しゃべっていますが、菌たちの口癖である「かもすぞ」という言葉、「発酵するぞ」より良いですね。真似したくなります。特に、日本酒やワインが好きな方々にとっては、耳よりな情報盛りだくさんで共感できる作品です。

そんな菌たちの間で今話題になっている？！のが、米ニューメキシコ州のカールズバッド洞窟群国立公園での出来事。観光客が洞窟に落としたスナック菓子のために、世界が一変してしまったかもしれないという話。

持ち込みが禁止されているスナック菓子を観光客が持ち込んで洞窟内で落としたために、洞窟の生態系に多大な影響が生じたというのです。同公園の洞窟内では飲料水以外の飲食が禁止されています。しかし同公園のフェイスブックの投稿によると、「ビッグルーム」と呼ばれる地中の広大な洞窟内の遊歩道から外れた場所で、スナック菓子のチートスが見つかりました。人間のスケールにしてみれば、スナック菓子を落とした事などささいな事に思えるかもしれませんが、洞窟の生命にとって、それは世界を一変させ得る大事件。加工トウモロコシは洞窟の湿気で柔らかくなり、微生物や菌類を宿すのに最適な環境を作り出します。すぐにカマドウマ、ダニ、クモ、ハエの一時的な食物網が出来上がり、周辺の洞窟や地層に栄養分をまき散らします。カビは周囲の表面のさらに高い場所へと拡散し、実を付け、死んで悪臭を放ちます。そしてこのサイクルは続いていくのです。レンジャーたちは 20 分かけて念入りにカビや異物を洞窟内の表面から取り除きました。スナック菓子から発生した微生物やカビの中には、もともと洞窟内の生態系には存在しなかったものも多かったとも指摘しています。

人間はどこへ行っても痕跡を残します。立入禁止にしてしまえば済むことかもしれませんが、人類の成長という観点からすれば必ずしも良いこととは言えないでしょう。せめて、訪れた時よりも立ち去る時の方が綺麗な環境であるように心掛けたいところです。

